

再意見提出フォーマット

再意見提出者	北海道放送株式会社
--------	-----------

意見募集において寄せられた意見に対する意見

No.	意見提出者	寄せられた意見に対する意見内容
40 47 58	クアルコムジャパン(株) ソフトバンクモバイル(株)、ソフトバンクテレコム(株)、ソフトバンクBB(株) 日本エリクソン(株)、ノキアシーメンスネットワークス(株)、ノキアジャパン(株)、ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ(株)	<p>3. 関連する国内外の動向と課題</p> <p>特定ラジオマイクに関する意見</p> <p>800MHz帯を利用した特定ラジオマイクは、平成19年8月にデジタルB型ラジオマイクが告示、さらに、平成21年3月電波監理審議会の答申によりデジタルA型の運用も告示されました。これは、ラジオマイクの更なる利用が見込まれ、周波数利用効率の高いデジタル方式の導入が求められたためです。メーカー各社もラジオマイクの高度化に向けた製品を開発し、発売されているところです。ラジオマイクのデジタル化は、ARIBでのワーキンググループによる検討開始から法制化まで10年の歳月をかけて実現されました。</p> <p>弊社においても、「現行周波数を利用した特定ラジオマイクの継続的な使用が可能であること」を前提に、平成22年6月デジタルA型ラジオマイクの免許を取得し、スタジオでの運用を丁度、開始したところです。</p> <p>デジタルラジオマイクは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① コンパクターを使用しない優れたレスポンスによりアナログワイヤレスマイクを超える音声品質とワイドダイナミックレンジを備えた音声伝送が可能 ② 送信電力50mWを利用可能 ③ 同一チャンネル妨害比・隣接チャンネル妨害比等が大幅に改善されたためアナログ方式に比べ占有周波数帯幅が増加したにもかかわらず、同時使用可能チャンネル数が増加し、デジタルに限り、FPU-1CHから4CHまで利用可能となり、周波数利用効率が向上 ④ 遅延量もコンテンツ制作上、問題のないレベル <p>以上のことから、平成20年6月末現在、約1万7千局が開設・運用されているアナログ方式が、順次デジタル化されることにより、更なる周波数の有効利用が可能であり、かつ、コンサート・舞台・スタジオ・中継・取材におけるコンテンツ制作の向上が期待されます。</p> <p>放送事業者は、引き続き番組制作無線システムの高度化へ取り組み、周波数有効利用の責任を全うし、放送文化の発展に寄与すべく努力する所存です。</p>